

「ドールハウスの世界展」開催！！

会期:2012年7月21日(土)～9月9日(日)

横浜人形の家の中に小さな町が出現！？

横浜人形の家が所蔵するドイツや日本など6カ国のドールハウスなど約100件を展示します。

19世紀中頃から20世紀後半までに制作された、建物の高さ110センチの大型のドールハウスから高さ12センチのお店のミニチュアまで、多彩なミニチュアの世界をご紹介します。

人形の家では平成18年以来6年ぶりのドールハウス関係の企画展です。

◆海外のドールハウス

現代のドールハウスの歴史は、16世紀、オランダ、ドイツ、イギリスなどで上流階級のコレクションから始まります。18世紀末になると産業革命の影響で、既製品として作られたものが出回りはじめ、19世紀半ばにはさらに安価な量産品が作られるようになり、その後、アメリカでサイズを統一したキットや完成品、部品が販売されたことから、一般市民へも普及しました。

このコーナーでは、住宅や肉屋など、イギリスやドイツなどで作られたドールハウス、約20件を展示します。中でも、19世紀半ば量産化が始まった頃のドールハウスで、昆虫など小動物まで含まれている点が珍しい「ノアの方舟」や、家具など小道具に加え、人やケーキや器など小物が揃っており、どのようにドールハウスで楽しんだのかがうかがうことができる「ケーキショップ」、建物の高さ110センチの大型のドールハウス(ヨーロッパ、国不明)など、ドールハウスならではの世界観を感じていただけます。

また、ロシアのガリナ・マスレンニコワにより20世紀前半に制作された「ロシアの市場」は、高さ約20センチの人形20数体と大振りの小道具で構成されており、日本での展示は珍しく見ごたえがあります。



「ノアの方舟」19世紀中頃、ドイツ(推定)



「ケーキショップ」1930年代、ドイツ



ドールハウス、19世紀後半～20世紀
ヨーロッパ、国不明



「ロシアの市場」
20世紀前半、ガリナ・マスレンニコワ

→裏面もご覧ください

お問い合わせ先

公益財団法人 横浜観光コンベンション・ビューロー 事業部 企画戦略部門
広報担当マネージャー 中村 淳 TEL: 045-221-2111

*本日は19:00まで在席しております。

◆日本のミニチュア

日本でも、江戸後期のひな人形やひな道具などに見られるように、大変小さな人形や道具が制作されてきました。その繊細な作業からは、小さく精巧な物を好む日本人の美意識を垣間見ることができます。

特に、ひな道具の一つである水屋道具は、台所のミニチュアで、日本版のドールハウスといえるでしょう。台所用品など細部まで再現されており、現在では使われない生活用具など、制作された当時の生活をうかがうことができます。本展では、明治から昭和期の水屋道具の他、おもちゃ屋などお店のミニチュアなど、日本で制作された和のミニチュア、約 80 件を展示します。



「水屋道具」明治時代、日本



お店 20 世紀前半、日本

開催概要 会期:2012年7月21日(土)~9月9日(日)
会場:横浜人形の家 3階 第3展示室
開館時間:9時30分~17時
(入館は16時30分まで)
休館日:毎週月曜日
〔月曜祝日の場合は開館し、翌火曜日休館〕
入館料:おとな(高校生以上) 300円
こども(小・中学生) 150円

同時開催！！ 夏休み特集企画

バービー&リカちゃん

in 横浜人形の家

会期:2012年7月18日(水)~8月12日(日)

場所:2階常設展示内 トピックスコーナ

●登場以来、女の子の憧れとして世代超えたファンを持つ「バービー」と「リカちゃん」、約 40 体を集集展示いたします。特に「バービー」は「コレクターライン」と呼ばれる大人向けに企画・販売された人形を中心に展示、日本で唯一の人形のオープンファクトリーとして開設された「リカちゃんキャッスル」で販売されていたリカちゃんが集合します。それぞれのファッションをお楽しみ下さい！！

○バービーってどんな子？

1950年代、アメリカ マテル社の創業者により、着せ替え人形として登場。80年代には大人向けに「コレクションライン」を発表、ファッションドールとして現在でも人気を集めています。当初は日本で生産されていました。

○リカちゃんってどんな子？

1967年、タカラ(現タカラトミー)により登場。低年齢層の子どもを対象で、主人公リカちゃんの他に家族やドレスや家具など関連グッズが豊富です。また、多くの他企業とのタイアップ企画もあります。

バービー



リカちゃん